

提言施策名	緑豊で環境に配慮した美しい街づくり 提言研究員 芹澤 正章
-------	----------------------------------

上記提言の要旨

私は、吉川に移り住んで約10年になりましたが、私が住んでいるエリアは比較的、緑に囲まれ住みやすい場所として又将来この街を担う子供たちにとっても良い生活環境であると感じております。この環境を更に拡張して街全体に広げることにより街のイメージを一新し、市民がより住みやすく外からたくさんの人を呼び込み特徴のある吉川市に生まれ変わると確信しております。

そのような思いで現在の街を眺めてみると、まず目につくのが折角4キロに亘る桜通りの並木が活かされていないということ。並木に並行してある木売落としが生活排水路と化し雑草がはびこり時には異臭をはなつ水路として、桜の景観を著しく損ねている。

更に魚の棲む自然豊かな水路として開発された鍋小路用水路も現在はその役割を果たしていないと感じている。この用水路沿いの桜並木も訪れる人がほとんどなく宝の持ち腐れとなっている。又この桜並木を周回す形で大場川沿いの桜も運動広場を挟んで植樹されているが活かされていない。又運動広場は遊水池の機能と併せて、市民の憩いの場として親しまれているが、日陰が少なく運動広場としての機能に欠けている。この為この場所を近隣との調和に配慮した場所にリニューアルさせ、市民の憩いの場所として再生させる。併せて、広場の一部を利用して災害発生時の緊急エネルギーに利用する為の設備を設け市による再生可能エネルギー（太陽光発電）の取り組みの第一ステップとする。

更に隣接する遊歩道を整備して市民の散策路として拡充させる。